

KEY
Person
in Oita



中津から切り拓く 手外科の未来。

社会医療法人 玄真堂 川島整形外科病院

診療副部長

後藤 剛

TAKESHI GOTO

ごとう たけし

昭和53年(1978年)生まれ。別府市出身。産業医科大学卒業後、全国各地で産業医・整形外科医を経験した後、平成27年(2015年)より川島整形外科病院に勤務。



中学では野球部、高校ではバスケット部、大学ではラグビー部に所属。スポーツマンらしいさわやかな笑顔が印象的。

昨年、創立40周年を迎えた「川島整形外科病院」。同院の信頼と実績を支えるのは、トップ水準の医療を提供すべく、日々たゆまぬ自己研鑽を重ねる医師たちの信念である。

肘から手指までを専門的に治療する手外科専門医として。

入院、手術のできる整形外科病院として、中津市を中心に広く県北の地域医療を担う「川島整形外科病院」。約40年間、高水準の医療を提供し続け、地域や社会に貢献してきた。

「患者さんには、気持ちが悪くても楽になるよう笑顔になってほしいんですよ。だから、診察では患者さんをお世話をやかせようとして、たくさん話しかけています。話が脇道にそれてしまうこともしょっちゅうなんですけど」と話すのは、診療副部長の後藤剛医師(43歳)。少し話しただけで、明るく親しみやすい人柄が伝わってくる。産業医科大学を卒業後、全国各地で産業医・整形外科医として勤務。医師3年目に「川島整形外科病院」に勤務した際、産業医科大学の先輩でもある古江幸博副院長のもとで学んだことが、整形外科医を志す大きな決め手となった。

実は、後藤医師も古江副院長も日本に1023人、大分県内に11人しかいない手外科専門医で、同院は手外科

の研修病院に指定されている。手外科とは整形外科の中でも、肘から手指までを専門的に治療する専門科目。手はほかの組織に比べてサイズが小さく、症状や疾患は多岐にわたるため、より繊細で緻密な検査や治療が必要とされる。「整形外科全般の治療をしますが、私としてはハンドの繊細な治療の方が自分自身に合っていると思うし、やりがいを感じています」。

手外科専門医の資格を取得したのは一昨年。目下の目標は「手外科の後藤です」と、自信を持って言えるようになることだと語る。「あそこのハンドいいよって、口コミで広がっていくように、日々の診療に丁寧に向き合っていくだけです」。今日も一人ひとりの患者に寄り添う後藤医師の今後の活躍に期待は高まるばかりだ。

Company data

社会医療法人 玄真堂
川島整形外科病院

中津市宮夫17
TEL 0979-24-0464
http://kawashimahp.jp

【事業内容】
医療業(整形外科、リハビリテーション科、脳神経外科、放射線科)をはじめ、介護福祉業(介護老人保健施設、通所リハビリ、デイサービス、訪問看護・リハビリ、ヘルパーステーション)の運営。